

美しい 県土づくりNEWS



目次

- 2 国道 342 号祭時大橋が開通
- 4 国道 46 号盛岡西バイパスが部分開通
- 5 一般県道野田長内線小袖～大尻地区のみちづくり
- 6 国道 281 号戸呂町口が完成
- 7 主要地方道一関北上線北鶴ノ木工区が部分開通
- 8 板川砂防えん堤工事の最終打設が完了
- 9 出崎地区のケーソンが豪快に進水
- 10 汚水処理事業経営勉強会を開催
- 11 第3回「いわて広告景観コンクール」のお知らせ
- 12 いわて花巻空港特急バスに”お得”な回数乗車券が新登場
- 13 JAL「黄金の國、いわて」キャンペーン 2011 のお知らせ
- 14 明日を担う若手職員を紹介します

(県庁道路建設課 木村技師)

2011年

1月



岩手県 県土整備部

手づくり広報誌 78号

平成 23年 1月 11日発行

編集 県土整備企画室



一般国道 342 号祭時大橋が開通！！

～ 岩手・宮城内陸地震による被災からの完全復旧 ～

平成 20 年 6 月 14 日に発生した岩手・宮城内陸地震によって落橋し、県が災害復旧工事を行ってきた一般国道 342 号祭時大橋が完成し、**平成 22 年 12 月 18 日(土)正午に開通**しました。

当日は、あいにくの雪模様でしたが、テープカットや『祭時被災地展望の丘』に設置した災害モニュメント(撤去した橋桁の一部)の除幕式などを行い、大勢で開通を祝いました。祭時大橋の被災により最も影響を受けた地元の御一家四代による渡り初めが行われる頃にはお日様も顔を出し、岩手・宮城内陸地震による被災からの完全復旧を祝福しているかのようでした。

一家四代の祭時大橋渡り初め



国道 342 号祭時大橋が開通！！

～ 岩手・宮城内陸地震による被災からの完全復旧 ～

県南広域振興局土木部 一関土木センター

平成 20 年 6 月 14 日に発生した「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」で落橋した国道 342 号祭時大橋が架け替えられ平成 22 年 12 月 18 日(土)正午に開通しました。

「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」は、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード 7.2、県内観測史上最大の震度 6 強を記録し、県内では 2 名が死亡、37 名が重軽傷を負ったほか、317 箇所、約 78 億円もの公共土木被害が発生しました。国道 342 号祭時大橋は、激しい地震動により発生した岩盤滑りにより落橋するという、橋梁被害の中でも最も深刻で、過去に類を見ない甚大な被害を受けました。

県では、被災から 5 ヶ月後の平成 20 年 11 月 30 日に仮橋を開通し、平成 21 年 5 月には祭時大橋の下部工工事に着手、平成 22 年 1 月からは上部工工事に着手しました。当初、祭時大橋は平成 23 年 3 月の開通を予定していましたが、工事関係者の尽力により、工期が大幅に短縮され、予定より 3 ヶ月早く開通させることができました。今回の祭時大橋の開通により、平成 22 年 5 月 30 日に開通した須川～真湯間を含めて、震災発生からわずか 2 年半で、全ての公共土木施設の完全復旧を果たしました。甚大な被害を受けた大規模地震からの完全復旧により、これまで以上に地域間交流の促進や、観光の活性化が期待されます。

祭時大橋
H22.12.18 開通



【開通式】

開通式典は、午前10時30分から祭時大橋の一関市内側で、関係者約40名が出席して行われ、駆けつけた多くの市民が見守る中、テープカットや『祭時被災地展望の丘』に設置した災害モニュメントの除幕などを行い、開通を祝いました。その後、祭時大橋の被災により最も影響を受けた地元の御一家の家族四代による渡り初めが賑々しく行われました。

なお、今回の祭時大橋の完成に併せ、今後の防災教育などに大きな役割を果たすことを目的として、新しい祭時大橋の袂に落橋した祭時大橋を一望できる『祭時被災地展望の丘』を整備し、撤去した橋桁の一部を展示していますので、本地域にお越しの際には、是非ご覧ください。また、祭時大橋の桁の一部は、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災で倒壊した阪神高速道路の構造物を一般公開している神戸市の「震災資料保管庫」にも、展示されています。

開通式のテープカット



祭時被災地展望の丘



【一関市道矢櫃線昇仙橋の復旧】

一関市が管理する市道矢櫃線昇仙橋は、磐井川に架かる現在の国道342号の昇仙橋が完成するまでの間利用されていた橋で、矢櫃ダム周辺の景観と調和した美しいデザインの鉄筋コンクリート造のアーチ橋でしたが、平成20年岩手・宮城内陸地震により落橋しました。

その時の様子について、当時、現地で高欄塗装工事をしていた2名の作業員は「突然の大きな揺れに慌てて左岸に飛び移り、振り返った時には大きな地鳴りとともに、橋は約20m下の磐井川に落下していった。危機一髪で難を逃れた。」と、地震の凄まじさと脅威を語っていました。

その後、一関市により災害復旧工事が進められ、地震発生からちょうど2年半となる平成22年12月14日に、以前と同じ構造の鉄筋コンクリートアーチ橋の新しい昇仙橋が開通しました。

新しい昇仙橋は、矢櫃ダム周辺の四季折々の景観を楽しむスポットとして、多くの方々に親しまれていくことでしょう。

落橋した昇仙橋



完成した新しい昇仙橋



国道46号『盛岡西バイパス』が部分開通しました！！

～ 盛岡市内の交通渋滞の緩和に期待 ～

道路建設課

平成22年12月21日(火)に国が整備を進めてきた盛岡市飯岡新田地内の国道46号『盛岡西バイパス』1.0kmが部分開通しました。

『盛岡西バイパス』は盛岡市内の交通混雑の緩和、交通安全の確保、沿線都市開発を目的として、昭和59年度に事業着手し、これまで、盛岡市飯岡新田から同市上厨川前湯までの5.6kmが開通していました。今回の部分開通によりバイパス計画7.8kmのうち、6.6kmが完成し、全線開通まで残り1.2kmとなりました。



【開通式】

開通式は、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、盛岡市、岩手県が主催し、盛岡市飯岡体育館において関係者ら約80名が出席し行われ、式典では、上野副知事、谷藤盛岡市長、澤田東北地方整備局副局長の挨拶に続き、今岩手河川国道事務所長から事業経過報告が行われました。

その後、現地に移動し、冬晴れの中、テープカットとくす玉開被で開通を祝い、警察車両を先頭にパレードが行われました。

テープカット・くす玉開被

開通パレード



一般県道野田長内線小袖～大尻地区のみちづくり

～ 地域の実情・ニーズを踏まえた道路整備 ～

県北広域振興局土木部

久慈市街地から海岸部を經由し、野田村へ向かう一般県道野田長内線は、通勤・通学・海産物の運搬等に使用される生活道路であるとともに、「北限の海女」で知られる小袖漁港や「つりがね洞」・「かぶと岩」など奇岩の多い小袖海岸を通る観光ルートとしても利用されています。

しかし、小袖地区から大尻地区の約3km区間は、道路の幅が狭く、すれ違いが困難で、大型バスの通行が難しいなど、観光面でも障害となっています。



優れた観光資源「つりがね洞」

現在は路線バス(中型)が通るのも一苦労



これらの問題を解消するため、この区間で大規模な道路改良を行った場合、大規模な事業費を要するほか、貴重な観光資源を大幅に変えてしまう可能性があることから、県では、生活道路としての「安全・安心」と「優れた景観の保全」を両立させるため、地域の代表や有識者の方々をメンバーとする「小袖～大尻海岸みちづくり懇談会」を組織し、この地区にふさわしい道路計画の策定を進めています。

平成22年12月20日には、3回目の懇談会を開催し、道路整備基本方針や道路の基本的構造の検討などを行いました。今後とも、懇談会などを通じて、地域の皆さんの声を聴きながら、地域の実情・ニーズを踏まえた道路整備を進めていきます。



地域の方々と話し合いを進めています

【これまでの取り組み】

平成22年9月4日

小袖地区事業説明及び要改善箇所の聴き取り

平成22年9月17日 第1回懇談会

懇談会の立ち上げ、現地視察 等

平成22年10月22日 第2回懇談会

住民アンケート結果整理、整備の方向性の検討 等

平成22年12月20日 第3回懇談会

道路整備基本方針の決定、道路の基本的構造の検討 等

【道路整備基本方針】 ～ 地域の安全安心とともに、美しい小袖海岸を守り育てるみちづくり～

生活・産業・観光など多様な道路利用や緊急時の円滑性に十分配慮するとともに、安全で安心なみちづくりを目指す。

景観や磯辺の資源に配慮しつつ、可能な限りの拡幅を行い、安全で円滑なすれ違いを確保する。津波や越波、土砂災害などの災害に対する安全安心の確保についても配慮する。

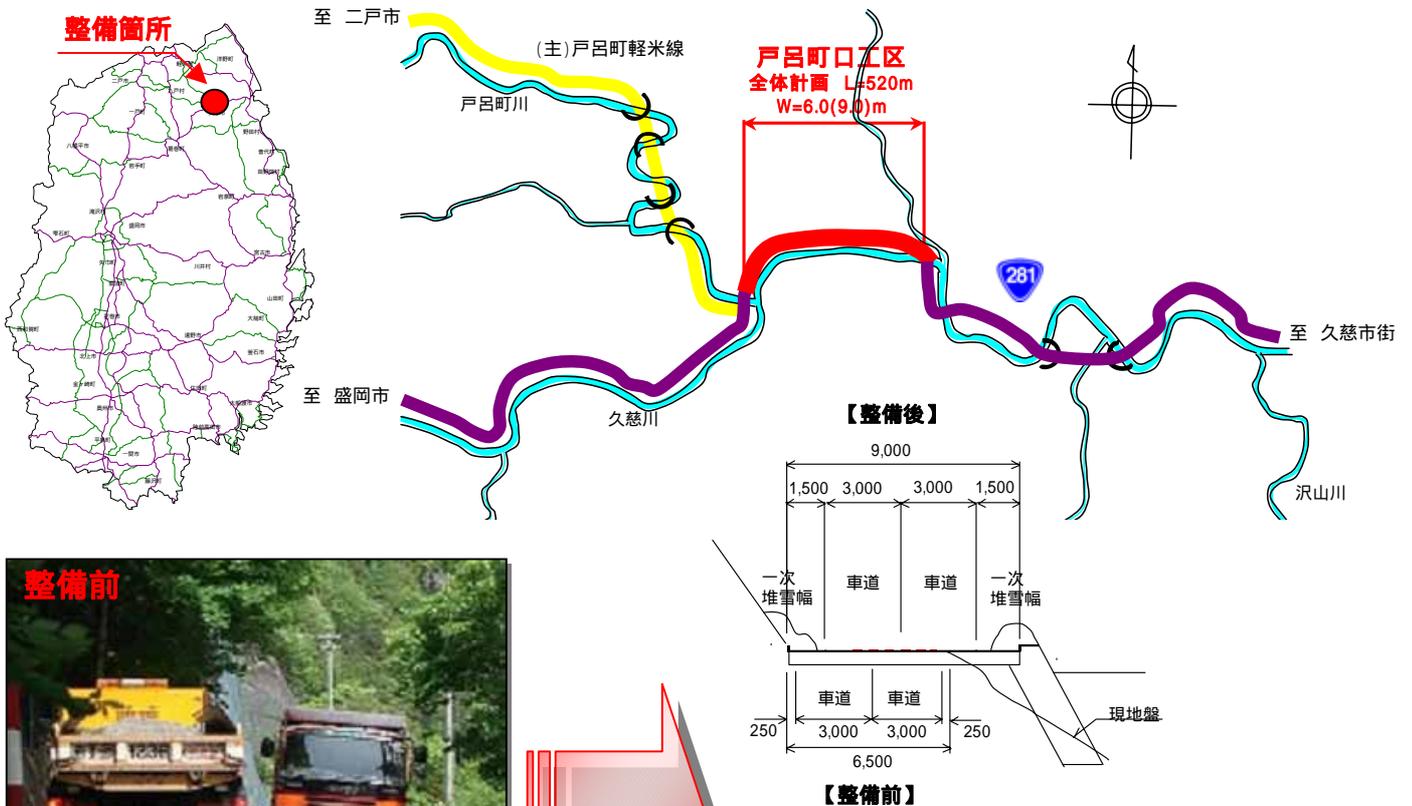
何ものにも替え難い地域の財産である美しい景観を残す。また景観をよりよく「魅せる」工夫を行うとともに、景観を「観せる」ための活用方法についても考慮する。

国道 281 号戸呂町口工区が完成！！

県北広域振興局土木部

県が、久慈市で整備を進めてきた国道 281 号戸呂町口工区が平成 22 年 12 月 22 日に完成しました。

国道 281 号は、盛岡市と久慈市を結び、物流や広域的な地域間交流を支える重要な路線ですが、久慈市の戸呂町口地区は、幅員が狭く急カーブもあるなど、特に大型車のすれ違いが困難な隘路区間となっていたため、平成 20 年度から道路改良に事業着手したものです。今回の完成により、狭隘な幅員や急カーブが解消され、交通の円滑化と安全確保が図られました。



主要地方道一関北上線北鶉ノ木工区が部分開通！！

県南広域振興局土木部

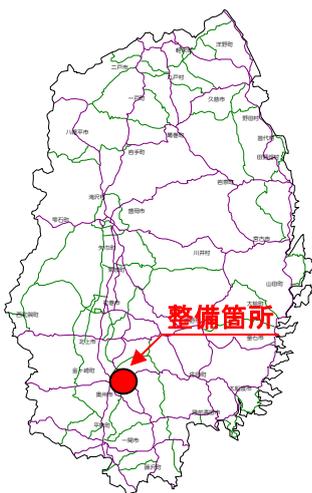
県が、奥州市水沢区で工事を進めてきた、主要地方道一関北上線北鶉ノ木工区の一部区間が平成22年11月27日に部分開通しました。

本区間の現道は、住宅や鋳物工場が密集し、大型車を含む交通量が非常に多い区間ですが、歩道が設置されていないほか、道路がクランク状になっており、安全で円滑な通行の支障となっていました。

このため、県では北鶉ノ木工区の整備に平成17年度から着手し、平成22年4月1日には、北鶉ノ木工区の北側で別事業(街路事業)として整備していた羽田工区640mを開通し、今回、羽田工区から南側へ続く北鶉ノ木工区の740mを部分開通したものです。

開通当日は、羽田地区振興会をはじめ関係者によるテープカットが行われたほか、午後には関係地権者ら約70人が出席して完成祝賀会が開催され、新しい道路の開通を祝いました。

今後は、平成23年度中の全線開通を目指して、残る橋梁工事などを進めていきます。



差し替えた地図は、別ページを御覧ください



板川地区砂防えん堤工事の最終打設が完了!!

～ 新工法の採用により工期を短縮 ～

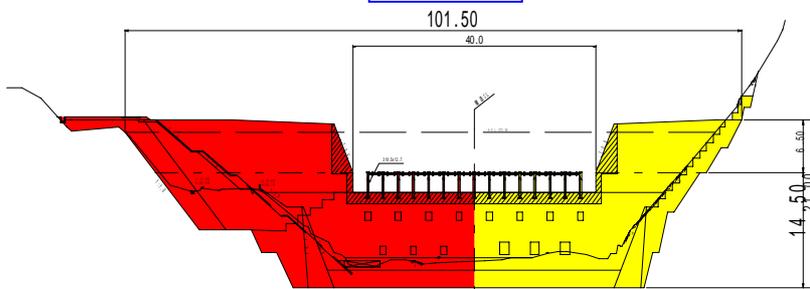
県南広域振興局土木部 一関土木センター

県では、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震により磐井川上流域に堆積した不安定土砂から下流の市街地や道路の安全を確保するため、平成21年度から一関市板川地区において、板川砂防えん堤工事を進めています。

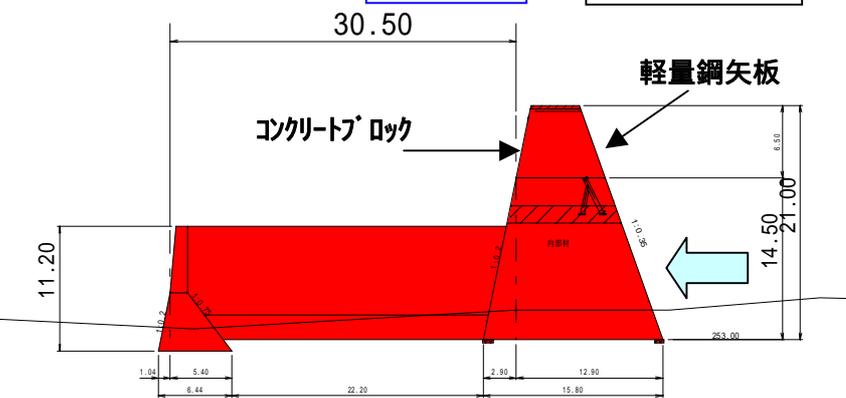
板川砂防えん堤工事では、県内初となる「INSEM-SBウォール工法」を採用した結果、通常はコンクリート打設に19ヶ月程度要するところを、16ヶ月でコンクリート打設を終了し、3ヶ月の工期短縮を図りました。

平成22年11月24日に現地で開催した最終打設式には、県や市、工事施工業者など約30人が集まり、堤体の最終打設を祝いました。今後は、平成23年3月の工事完成に向けて、押え盛土工などの工事を進めていきます。

下流面図



断面図



位置図



INSEM-SBウォール工法とは？

現場発生土にセメントを混合し、残土やセメント使用量の低減を図るINSEM(インセム)工法により構築した堤体内部材を、軽量鋼矢板(Steel wall)、コンクリートブロック(concrete Block wall)で保護することにより、現地発生土砂の有効活用による環境負荷の低減や、設計・施工の合理化、コスト縮減などを図る工法。

板川砂防えん堤では、槻木平砂防えん堤の堆積土を材料に使用している。

クレーンによる最終打設



万歳三唱



出崎地区のケーソンが豪快に進水

沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター

平成22年12月21日、県が宮古市で整備を進めている宮古港出崎地区護岸（防波）工事のケーソン進水式を現地で行いました。

宮古港のケーソン進水は、昭和初期から活躍している木製斜路の上をそりが滑る方式で、全国でも宮古港と小樽港のみで実施している非常に珍しいものです。現地で行われた進水式では、地元小学校の児童によるロープカットが行われ、長さ10m、幅12.9m、高さ9mで約720tものケーソンが勢いよく木製斜路を滑り、波しぶきを上げて豪快に進水しました。今回進水したケーソンは、興味を持った地元小学生から研究発表の題材にしたいとの申出があったことから、製作段階から触ってみたり、上ってみたりと触れ合ったケーソンだけあって、参加した小学生は、自らロープカットという大役を果たして無事に進水したことをとても喜んでいました。

また、12月26日には、今年度2回目の進水を行い、平成13年度に製作をはじめたケーソンは全部で13函が進水しました。来年度以降、残る5函を製作、進水する予定であり、進水の際にはホームページなどでお知らせしますので、迫力ある現場を是非、間近でご覧ください。

ケーソンを木製斜路の上に載せます！



地元小学生が金色の斧でテープカット！



波しぶきを上げてケーソンが進水！



汚水処理事業経営勉強会を開催

～ 持続可能な汚水処理を目指して ～

下水環境課

県では、汚水処理事業に関する様々な情報を正確に理解し、円滑な業務推進を図ることにより持続可能な経営に寄与することを目的として、市町村の実務担当者が意見交換や情報交換を行う「汚水処理事業経営勉強会」を昨年度から開催しています。

下水道、集落排水、浄化槽の汚水処理事業は、運転を開始したら止めることができず、また、施設は利用者からの使用料収入で運営されるため、汚水処理事業の維持管理担当者には、相応の経験と技術的・経営的なノウハウが求められます。しかし、行財政改革などによる人員削減が進み、技術継承も難しくなっていることなどから、職員が少ない市町村では、汚水処理施設を適正に維持管理していくことが大きな課題となっています。

そこで、県では、市町村の実務担当者同士で、普段悩んでいること、知りたいことなどを意見交換する場として「汚水処理事業経営勉強会」を開催することで、市町村の実務担当者の不安を取り除き、適正な業務運営に結び付くように支援しています。

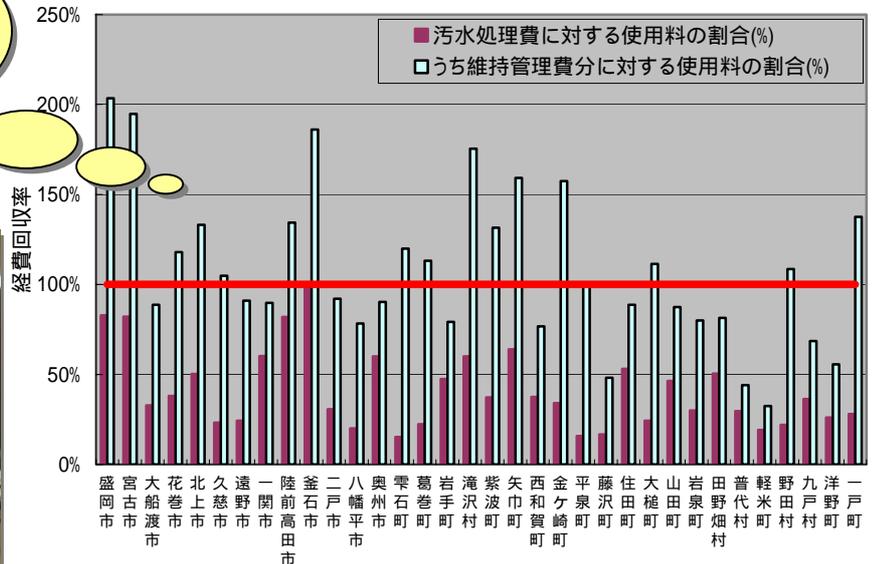
今年度の勉強会のテーマは、市町村からの要望も踏まえて「早期接続対策の事例研究」と「下水道事業に係る繰出基準について」の2テーマとし、7月と11月に勉強会を開催しました。市町村の実務担当者には、今回の勉強会で得た情報や、勉強会で築いた参加者同士のネットワークを今後の業務で活かしていただきたいと考えています。

【今年度の勉強会】

- 第1回 テーマ:早期接続対策の事例研究 平成22年7月27日開催、参加人数21名
- 第2回 テーマ:下水道事業に係る繰出基準について 平成22年11月30日開催、参加人数20名

経費回収率とは、使用料単価を汚水処理原価で除した数値で、100%以上であれば使用料で資本費や維持管理費が賄えていることになります。

市町村別経費回収率
(平成20年度:汚水処理事業全体)



勉強会の様子

第3回 「いわて広告景観コンクール」のお知らせ

都市計画課

岩手県屋外広告物コンクール実行委員会（県、盛岡市、岩手県屋外広告美術業協同組合）では、『まちの魅力を創出する優れた屋外広告物』や『屋外広告物のデザイン案』を平成23年1月31日まで募集しています。

このコンクールは、景観と調和し、まちの魅力を創出する優れた屋外広告物を表彰し、その普及を促進することにより、美しい岩手の実現を目指しているもので、今年で3回目の実施となります。

表彰は、県内で既に設置されているものを対象とした「広告景観部門（既設部門）」と、屋外広告物のデザイン案を対象とした「デザイン部門（その1、その2）」で実施します。夢のあるたくさんの作品の応募をお待ちしています。

1 応募・推薦の方法

県庁都市計画課のホームページから応募いただくか、応募・推薦用紙に必要事項を記入し、写真又はデザイン案を添付のうえ、郵送又は持参で応募ください（ホームページからの応募の場合は、写真又はデザイン案の電子データを添付）。

窓口/問い合わせ先：県庁都市計画課、広域振興局等の土木部等又は盛岡市景観政策推進事務局
 ホームページ：<https://www.pref.iwate.jp/recept/form.rbz?cd=61>

2 募集期間 平成23年1月31日（月）まで（当日消印有効）

3 表彰

特に優れた作品には、賞状・記念品を授与し、作品を「プラザおでって」に展示します。（広告景観部門（既設部門）の表彰対象は、施主、設計者（デザイン）、施工者。推薦者には記念品を授与。）

【表彰】

岩手県知事賞（全部門から1点） 盛岡市長賞（全部門から1点）
 岩手県屋外広告美術業協同組合理事長賞（全部門から1点） 優秀賞（各部門から数点）

4 募集対象

(1) 広告景観部門（既設部門）

県内で既に設置されている、景観と調和し、まちの魅力を創出する優れた屋外広告物の推薦を募集します。（現地の写真が必要） 【第2回受賞作品】



(2) デザイン部門（その1、その2）

「美しくまちにとけ込むサイン」のテーマに、屋外広告物デザイン案を募集します。

<p>ア その1「花巻空港に設置される県内観光地等を紹介する集合案内板のデザイン（表示30㎡まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B2判で提出してください。 ・設置場所のイメージは右写真のとおり。 ・集合案内板は、観光施設（仮想）を案内するものとします。 	
<p>イ その2「2025年（15年後）の盛岡駅からみた広告風景のデザイン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A3判で提出してください。 ・設置場所のイメージは右写真のとおり。 ・広告は空想（架空）のものでも可。 	<p>2025年の盛岡は？</p>

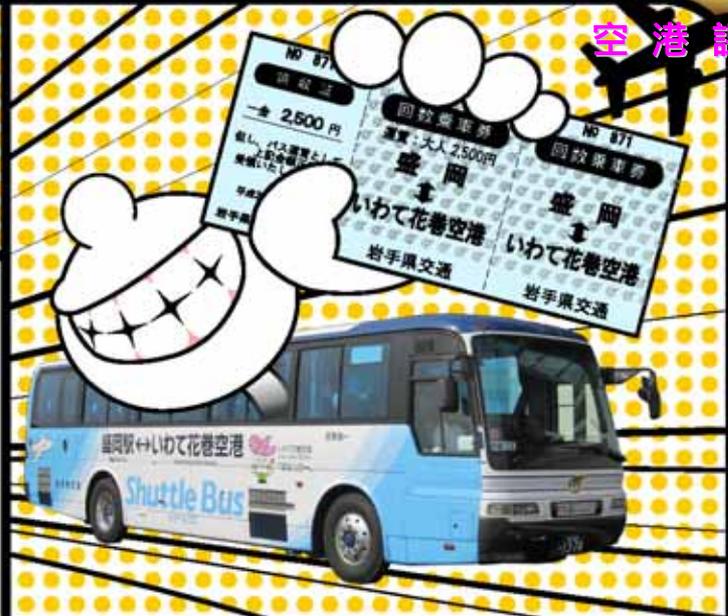
いわて花巻空港特急バスに”お得”な回数乗車券が新登場！

耳よい情報
盛岡⇔いわて花巻空港
特急バス

回数乗車券新登場！

2枚綴りだから、
往復で使える。二人で分け合える。
かしく使って、より良い旅を。

平成23年1月1日から販売中



とあるビジネスマン
の場合…



とあるご夫婦
の場合…



- 販売価格 ●
回数乗車券 **2500円**
(片道1400円券×2枚綴り)
※通常運賃(片道)
大人1400円(小児700円)
- 販売窓口 ●
・盛岡バスセンター
・岩手県交通株式会社盛岡駅前案内所
・岩手県交通株式会社空港案内所
- 問合せ先 ●
・岩手県交通株式会社空港案内所
電話:0198-26-2017
場所:いわて花巻空港内



特急バス
運行経路

所要時間：63分
(盛岡バスセンター～いわて花巻空港)



※特急バスは、全定期便の航空ダイヤに合わせて運行されています。
※毎月航空ダイヤに合わせて時刻は変更になりますので、いわて花巻空港で発行している総合ダイヤなどで運行時刻をご確認ください。

JAL 黄金の国、いわて。

マルコ・ポーロや西行法師、松尾芭蕉が憧れた理想郷。

キャンペーン 2011

キャンペーン期間:2011年1月1日~2011年5月31日(ご搭乗分)

黄金は、豊かさの象徴。そして、変わらぬ価値、信頼の象徴。
「黄金の国、いわて。」は、平泉をはじめとしたいわての誇る歴史や文化、すばらしい自然、高品質で安全・安心な農林水産物、各地で伝承されている伝統芸能や伝統工芸、実直で勤勉な人材など、岩手全体の豊かさと信頼を表現したものです。

空港課

いわて花巻空港発着路線 札幌線・大阪(伊丹)線に 2回ご搭乗ごとにチャンス!!



メリケンパーク(盛岡市)



時計台(札幌市)



大阪湾(大阪市)

安比高原
アイスクリーム **12**名様

岩手「中村真」
うに
海宝漬 **12**名様

さいとう製菓
黄金
かもめの
玉子 **16**名様

高瀬精造(株)
白金豚
(ロースしゃぶしゃぶ)
12名様

海苔せんべいの源手造
南部せんべい
詰合せ **12**名様

岩手県の特産品を
抽選で88名様に
プレゼント!!

陸奥製糖場
スズメ蜂
ウォーター **12**名様

びとんびん舎
盛岡冷麺
スペシャル **12**名様

いわて岩手県産物(イワテ)
イメージキャラクター(はっぴー)

■応募期間■

2011年1月6日~2011年6月10日

第1回

2011年1月6日~2011年3月17日

第2回

2011年3月18日~2011年6月10日

■応募方法■

JALキャンペーンサイトにて応募ください。 <http://www.jal.co.jp/area/iwate/>

■問い合わせ先■

「JAL黄金の国、いわて。キャンペーン」事務局 TEL022-261-2245

営業時間/10:00~12:00、13:00~17:00(土日祝、年末年始(12/30~1/3))を除く

明日を担う若手職員を紹介します！

No.9 県庁道路建設課 技師 木村譲治さん

美しい県土づくりNEWSでは、県土整備部の明日を担う若手職員への突撃 お仕事インタビューを掲載しています。若手職員の日頃の仕事内容や、仕事に対する心意気などをご紹介しますので、ご期待ください。

第9回は、北東北三県人事交流で秋田県から本県に出向している県庁道路建設課の木村技師です。

Q1 担当している仕事を教えてください

平成6年度秋田県入庁

秋田県では、河川砂防・ダム管理・道路建設・産業振興等と幅広く経験してきましたが、中でも道路建設関係が長く、主に設計監督を担当してきました。

(現在)道路建設課2年目【北東北三県人事交流】

北東北三県人事交流で、昨年度から県庁道路建設課に勤務し、主に道路改築事業や交付金事業など道路整備関係の予算管理の業務を担当しています。



Q2 仕事の面白いところは何ですか？

新しい道路の完成により、時間短縮や交通安全確保などの整備効果が発現し、地元の皆さんに心から喜んでいただけることにとてもやりがいを感じます。また、技術職員として、新しい発想や新技術の活用、より良い品質管理などにより、整備後の維持管理費が軽減されるような道路整備を進めることに面白さを感じています。

Q3 仕事の難しいところは何ですか？

秋田県出身の私にとって、地理状況もよくわからない岩手県勤務は、担当する事業箇所の状況を把握するのも一苦労です。さらに、県庁勤務は秋田県も含めて初めての経験ですが、個人的に苦手な説明力を求められる業務が多いので、いつも頭を抱えています。

また、地元の皆さんと信頼関係を築くことや、地元のニーズをしっかりと理解するためのコミュニケーションにも苦労しています。

Q4 どんな職場ですか？

それぞれが職場の良い雰囲気づくりを意識しているのが感じられ、相談しやすく一人で悩むことが少ない職場です。若手も意見が言いやすく、交通整理(課題整理)が上手な上司にも囲まれて居心地が良く、秋田県出身の私と違って、比較的酒が得意でない人が多い?職場です。

Q5 最後に一言(今後の抱負など)!

何事にも前向きに一生懸命やるのが自分のスタイルで、今後も続けていきたいと思えます。また、誰に対してもどんな場面でも、自分の将来の糧になるように、真摯に向き合いたいと思えます。

